

大津けいはん タイムス

大津の京阪電車を愛する会10周年記念号

2015年 秋

発行：大津の京阪電車を愛する会
発行日：2015年10月1日

「大津けいはんタイムス」を手にとっていただきありがとうございます。本紙は大津市内を走る京阪電車沿線の人々との交流と、まちの活性化を目指し「大津の京阪電車を愛する会」の会員自らが作った情報紙です。

★「大津の京阪電車を愛する会」は、貴重な公共機関としての京阪電車大津線（京津線・石山坂本線）の利用促進を図ることなどを目的に設立された市民団体です。



「坂本では毎朝、般若心経が町に流れるんですよ」と聞いた。比叡山中学と比叡山高校の全校生徒が8時40分からの朝礼で唱える音声だ。山あいの校舎から坂本の町に聞こえてくる。創立140年を超えた延暦寺学園の伝統で、生徒たちはその意味を学び、暗唱できるようにする。(写真は比叡山高校提供)

夕刻に聞こえる三井寺の鐘の音。「近江八景」の一つで、「残したい日本の音風景100選」にも選ばれた。これを聞くために大津を訪れる人もいます。2014年6月、市民団体の「三井寺の鐘はどきまで聞こえるか」の調査によると、日によって2%先まで聞こえたが、近年は様々な音が交錯して、聞こえる範囲は狭まってきたという。



三井寺の晩鐘



滋賀県庁近くにある天孫神社は、春には夜桜を楽しむ人々で賑わう。4月3日の夜だけは日吉権奉迎祭が営まれ、境内の雰囲気が一変する。日吉大社の山王祭で使う神のお払いで、神社周辺から太鼓の音が聞こえると、神事が始まると、雅楽の演奏とともに境内が静まりかえり、厳かな雰囲気に包まれる。

大津音景10景



近江神宮の流鏑馬

直線の参道に設けた馬場を、武者装束の射手が騎馬でタッタッタ…と全速で駆け抜けながら、途中の的に矢を放つ。的に当たると大きな音が鎮守の森に響き、観衆から歓声があがる。天智天皇の故事にちなむ「時の記念日」に合わせて、毎年6月第1日曜日に開催される。(写真は近江神宮提供)



大津祭のお囃子

毎年10月の大津祭。13基の曳山が巡行する。曳山から流れてくるお囃子は、鉦、太鼓、笛の3楽器で演奏される。お囃子は各曳山固有のもので、曳山ごとに違う。楽曲はそれぞれ各曳山に10種類程度ある。宵宮でだけ演奏する曲、本祭で曳山が坂道を上るときに、曳き手を鼓舞する曲もある。お祭りに聴き比べてみてはいかが。



競艇のエンジン音

別所駅から徒歩約5分の湖畔に、びわこ競艇場がある。年間を通じてレースが行われていて、そのエンジン音はかなりの離れたところからも聞こえる。大津市民なら一度は聞いたことがあるだろう。湖面を取り込み、昭和27(1952)年にできた。全国で2番目の公認コースで、唯一県が主催。場内スタンドから見晴らし抜群だ。



京阪電車の警報音

電車が近づくと踏切の警報機がカンカンと鳴って、棒が降りてくる。棒が降り切ると警報音が小さくなることにお気づきだろうか。また、21時30分から翌朝6時までも減音されている。警報機が鳴るタイミングは規則で定められていて短縮できないが、音量は安全を確保しつつ周辺環境に配慮している。

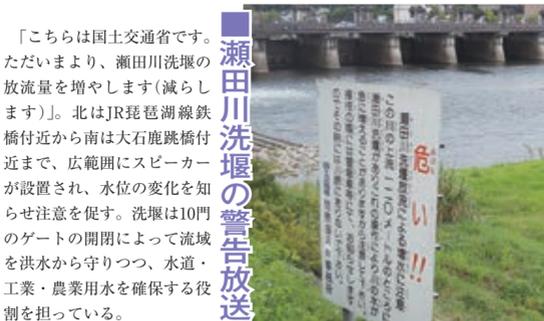
今夏も「びわ湖大花火大会」は全市に音を響かせ、多くの見物客を集めた(写真はびわこビクターズビューロー提供)。大津線沿線では、石山寺の「千日会」、唐橋周辺の「船幸祭」、「膳所夏まつり」と、花火を楽しめる催しが続く。夏以外の季節でも時折、夜空に花火の音がこだまする。「結婚式かな?」。打ち上げ花火が、誰かの記念日を知らせる。



琵琶湖の花火



この軽快な曲が聞こえてくると、今日は移動図書館の日だ。「こんにちは〜大津市立図書館です。本をたくさん積んでやってきました」のアナウンスが流れ、「さざなみ号」の到着だ。今日はどんな本と出合えるかな。2週間ごとにやってくる移動図書館のステーションが、市内には28カ所ある。



「こちらは国土交通省です。ただいまより、瀬田川洗堰の放流量を増やします(減らします)」。北はJR琵琶湖線鉄橋付近から南は大石鹿橋付近まで、広範囲にスピーカーが設置され、水位の変化を知らせ注意を促す。洗堰は10門のゲートの開閉によって流域を洪水から守りつつ、水道・工業・農業用水を確保する役割を担っている。

「大津の京阪電車を愛する会」10周年

ごあいさつ

平成17年11月16日に「大津の京阪電車を愛する会」を設立し、この度10周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援ご厚情によるものと、心より感謝申し上げます。

京阪電車大津線(石山坂本線及び京津線)は、琵琶湖と山並みの間を細長く連なる大津市の市街地を縦断しております。世界文化遺産・比叡山延暦寺の門前町である坂本地区から、浜大津駅や三井寺周辺の中心市街地を経由して、紫式部ゆかりの石山寺地区に至る大津市の枢要部において、なくてはならない貴重な交通機関です。また、JR琵琶湖線や湖西線への接続機能も果たし、大津市のまちの発展とともに歩んできた市民にとっての歴史的・文化的な資産でもあります。

しかしながら、モータリゼーション(自動車社会)の進展や沿線環境の変化による影響で、大津線の利用者が恒常的に減少し、存続が危ぶまれる事態が取沙汰された平成17年、発起人の方々の尽力により「大津の京阪電車を愛する会」が発足しました。

本会では、市民が主体となって活動し、会員の勧誘を行い、会員証・企画乗車券の配布、大津線の車内や沿線で行う各種イベント等を通して京阪電車にふれあう機会をつくり、市民の関心を高め利用促進を図っています。これは、高齢者等の社会活動手段の確保や地域の交通渋滞対策、地球温暖化防止を含めた環境保全、公共交通を活かしたまちづくり等にもつながります。

今年度の会員は、約1,000名です。その内、活動の中心となるボランティア会員が約30名、20代から80代までの幅広い年齢の方が登録され、多種多様なアイデアを出し合い、イベントの企画から運営、「大津けいはんタイムス」の発行などを行っ

会長 安孫子 平次



ています。これまで「湖都古都おつ電車DE落語」「湖都古都電車でどここウォーキング」「近江神宮DE散策&かるた大会」「大津の京阪電車&ピアンカ恋活クルーズ」などのイベントを行い、参加者から大変好評をいただきました。

今年度は別掲のように、11月15日(日)に10周年記念式典とイベントを企画しています。

今後とも、本会に皆様の深いご理解とご支援を賜りますとともに、大津線の活性化のためこれからも皆様と一緒に活動を推進していくことを誓い、10周年の挨拶といたします。

10周年記念式典とイベントのご案内

日時：11月15日(日) 午後1時
場所：びわ湖大津館

式典

- ・講演「京阪電車大津線のあゆみ(仮題)」
- ・イベント(予定)
- ・芝生の上でのミニ京阪電車乗車会
- ・電車模型の走行会
- ・京阪電車の制服を着ての写真撮影会
- ・お絵かき作品&応援メッセージの展示
- ・10周年を記念した、愛する会特別ラベル日本酒の予約販売

その他に、楽しいコンサートなども企画中です。みなさまお誘いのうえ、ぜひご参加ください!

*詳細につきましては、1ヶ月前をめどにホームページなどでお知らせします。

10年のあゆみ(主なイベント)

平成17年	11月	設立総会 会員用大津線一日乗車券のデザイン公募	平成23年	3月	パワースポットめぐりと座禅体験
平成18年	5月	湖都古都おつレンタサイクル(写真①)	5月	第6回総会	
平成19年	3月	第2回総会	8月	夏休み1日小学生駅長(写真②)	
	11月	湖都古都おつレンタサイクル	10月	湖都古都電車でどここウォーキング	
平成20年	2月	第3回総会	5月	第7回総会	
	5月	古都大津・喫茶の日	11月	近江神宮DE散策&かるた大会	
	9月	湖都古都おつ電車DE落語&ピアノ		NHKドラマ石坂線物語 エキストラ参加	
平成21年	3月	湖都古都おつJAZZ電車(写真③)	平成25年	6月	第8回総会
	5月	第4回総会	8月	京阪電車の絵コンクール	
	9月	愛する会会員限定の感謝祭	11月	お坊さんめぐり大会	
	9月	大津けいはんタイムス創刊	平成26年	3月	寝屋川車庫見学
	11月	石坂線みんな文化祭	5月	第9回総会	
平成22年	3月	春の大津 初恋と癒しのプチ旅行	8月	愛する会会員限定の感謝祭(写真④)	
	5月	大津まつり(子どもお茶会)(写真⑤)	11月	近江八景八分の六景ウォーキング	
	5月	第5回総会	12月	湖都古都おつ電車DE落語(写真⑥)	
	12月	ラッピング電車・車内アナウンス体験	平成27年	2月	大津の京阪電車&ピアンカ恋活クルーズ
			5月	第10回総会	

「大津の京阪電車を愛する会」会員募集中!

皆さんも本会とともに京阪電車大津線を支えていきませんか?

入会方法

- 入会は1口2,000円です。
- ご住所、ご連絡先を電話(077-528-2736)、FAX(077-521-0427)にてお伝えいただければ、申込用紙兼振込用紙をお送りさせていただきます。
- 申込用紙兼振込用紙に必要事項をご記入の上、最寄りの郵便局で会費をお振込ください。後日会員証、乗車券等をお送りいたします。

会員特典

- ☆1口(2,000円)につき普通乗車券綴り(170円区間×6枚)がついてきます。
- ☆市内約40施設で割引等の特典が受けられる会員証1枚。
- ☆本会主催のイベント案内等をお送りします。



申込用紙は京阪大津線各駅に設置しています。

大津線の危機に際し設立、利用促進図り、人と環境にやさしい社会をめざす



大津の京阪電車を愛する会

<http://ok-love.sakura.ne.jp/>

〒520-0047 滋賀県大津市浜大津4丁目1-1
「明日都浜大津」1階 市民活動センター内
TEL/FAX: 077-523-6238
(事務局は、土曜日の午後1時~4時に開いています)

〒520-8575 滋賀県大津市御陵町3-1
大津市建設部交通・建設監理課
TEL: 077-528-2736 FAX: 077-521-0427

浜大津は交通の要衝である。かつては湖上交通でも栄えた。今も浜大津駅は京津線や石山坂本線の拠点駅だ。橋上の改札を出ると「びわ湖がパッと広がって見えるのがいい」と話すのは、駅に隣接する明日都浜大津1F角の喫茶「ひろ」のオーナー。お店に立ち寄った観光客には是非と、この景観(写真⑤)をすすめるそうだ。この店は、現オーナーの先代がスタンド喫茶として、50年ほど前に当地で始めた。その頃は江若鉄道の浜大津駅もあったので、京阪浜大津駅と観光船乗り場などの集中する場所として大いに賑わっていた。

浜大津駅前の変換点は「三井寺力餅本家」(写真⑥上)もある。この地で明治2(1869)年から三井寺の鐘と弁慶の怪力に因んで餅を作り始め、現在で五代目となる。毎日朝一番の作りたてのお餅を近くの三井寺境内の店に届けるのが日課だ。「朝の境内は静かで心が休まる」と清々しさを五代目の奥さん滋野寿子さん(52)は語る。京阪沿線の大阪、京都、坂本、石山方面などからのご来店さんも多いらしい。

大津は、古くは京都に遷都された頃より、越前、若狭方面からの物資が湖上を経て集積され、大津の繁栄の基礎となった。大津城は、天正14(1586)年頃坂本城とその城下町を移し築城された。城は水城で湖水を利用した堀で守りを固め、湖上には百艘の船を備えていた。当時大津百艘船が手厚い保護を受けたのは、秀吉の蔵入り地の年貢米を船で輸送するためであり、琵琶湖水運と京都や大坂を結ぶ交通網の要だった。江戸時代、東海道五十三次最大の宿場町として栄え、物と人が行き交い商人たちの大活躍、賑わいぶりは「大津百町」といわれた規模からも想像できる。

「札の辻」から旧東海道を東に30メートルほど進むと、左側に「此附近露国皇太子遭難之地」と刻まれた石碑(写真⑥下)がある。大津事件の現場だ。明治24(1891)年5月、来日中のロシア皇太子ニコライ(のちのニコライ二世)が警備中の巡查津田三蔵に斬りつけられた事件だ。この事件は大国ロシアに脅威を感じていた日本中を震撼させた。政府は大逆

罪を適用して犯人を死刑に処すべきと幕引きを図ったが、児島大審院長は司法への介入を拒否し、通常の謀殺未遂罪を適用し無期徒刑の判決を下した。司法権の独立という日本の近代への確かな足跡を示した歴史的な事件の場である。

琵琶湖汽船社長の川戸良幸さん(60)は、「琵琶湖汽船では今までの湖の周遊観光のみならず、湖上交通としても利用してもらい、下船して大津市内各地を散策しながら楽しんで

もらう企画を提案している」と話す。まさに埋もれている歴史や文化などを意識して採り上げることで、心の豊かさを刺激するものになり、まちの活性化にもつながる。さらに長期的視野に立つ大胆な発想の必要性を熱く語った。

これからの浜大津の発展には、公共交通の再活用も視野に入れたターミナル駅を中核としてまちづくりが展開されるといふ未来構想も聞き、ワクワク感が広がった。

眼前に琵琶湖広がる拠点駅

途中下車の小さな旅

浜大津駅がいわい



石山坂本線



【駅ナンバリング】

大津線の駅看板、車内路線案内図などに平成27年4月から駅ナンバリングが表記されている。観光地である大津に増加が見込まれる訪日外国人旅行者などが、駅を利用しやすいよう導入された。運賃表、駅出入口サイン、車内自動放送などについても、順次整備されるそうだ。路線を表す記号は大津線の「OT」。石山坂本線は石山寺駅が起点となっ

て「OT01」から始まり、坂本駅方面に向けて順番に番号が大きくなり坂本駅では「OT21」。また、京津線は30番台で京阪山科駅の「OT31」から始まり、上栄町駅は「OT35」。御陵駅については、京都市交通局が既に地下鉄東西線の駅ナンバリングを行っていて、「T08」となっている。

京阪電車知って得する! まめ知識

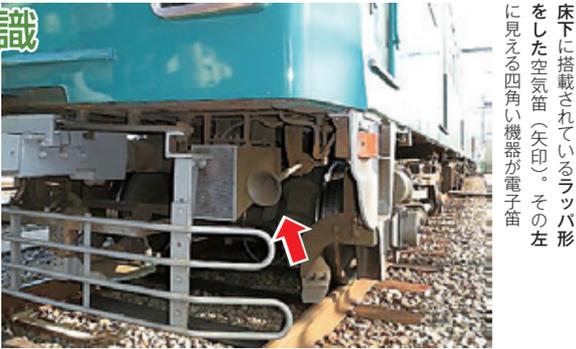
■浜大津駅 幻の発車音

駅のホームにいると一度は聞いたことがある列車の発車するときの鳴る音。実はこの音に違いあるのをご存知だろうか。発車合図といい、始発駅で列車に対して鳴らされるもので、大津線では当駅始発の列車が仕立てられる京津線の御陵・四宮・浜大津、石山坂本線の坂本・近江神宮前・浜大津・石山寺の各駅で発車合図のブザーが鳴る。一番良く耳にする機会があるのは、浜大津駅の京津線列車の出発時と石山寺・坂本駅と思う。坂本・石山寺の両駅では出発する乗り場によって、四宮・浜大津駅では行き先方面別にブザーの音階の高低で区別している。音階に注目して、発車合図のブザーを聞いてみると、なるほど違う音だと気付かされる。

あと、幻の音があるのをご紹介したい。浜大津駅の発車合図である。1番のりばの京津線の京都方面行きと石山坂本線の坂本方面行き、および2番のりばの石山坂本線の石山寺方面行きと、3種類の発車合図が用意されている。現在、臨時列車も含めて、浜大津駅を始発とする石山寺行き列車の設定がないので、浜大津駅2番のりばの発車合図ブザー音はまだ鳴らされた事がない幻の音である。

■2種類の警笛

大津の街中を走る京阪電車。電車の警笛と聞いて、思い浮かぶのはどんな音だろうか。「ファーン」か「ゴォーン」か。電車に2種類の警笛なんてあったかしら?と思われる方もいるのではないだろうか。電車の警笛として思い浮かぶのは「ファーン」という甲高い音。大津線の車両もこの警笛を持っていて、空気笛と呼ばれる。ラッパのような形をした部品が車両の床下に取り付けられており、空気を送り込むと音



床下に搭載されているラッパ形をした空気笛(矢印)。その左に見える四角い機器が電子笛

が鳴る。楽器を鳴らすのと同じ仕組みである。空気笛の音はかなり大きく、遠くからでも良く聞こえる。しかし、それがゆえに騒音苦情が届いた歴史がある。

道路上を走る区間では、自動車との接触事故を避けるために警笛を鳴らすことがある。ホームにいる乗客や駅員、線路脇にいる作業員に列車の接近を知らせるために鳴らす機会も多く、沿線の迷惑を低減させようと考案されたのが電子音を鳴らす警笛。「ゴォーン」という低い和音が鳴るのが大津線車両の特徴でもある。この電子音は昭和53(1978)年から搭載されたそうである。800系まで電子音の音色は受け継がれている。

警笛は、電車の運転席にペダルがあり、軽く踏むと電子音が、強く踏むと空気笛が鳴る仕組みになっている。警笛を鳴らすのは列車の接近を知らせ、事故を未然に防ぐためであり、本来は鳴らない方が良い。もし、警笛を聞く機会があれば、空気笛と電子音の警笛、2種類有ると知って聞いてみると、かなり違うものであるのが実感していただけるだろう。

「総合型地域スポーツクラブ NPO法人 瀬田漕艇倶楽部」は、新瀬田浄水場近くの住宅街の中に、琵琶湖に流れ入る水路に面して瀟灑な姿を見せる。「クラブハウスは我々の誇り」と、整理・整頓・清掃・清潔を徹底し、毎月の全員集合日には施設保全や花壇の手入れ、水路整備などに汗を流す。瀬田漕艇倶楽部の創設者古川宗寿さんは、海外に選手として遠征した時に地元のRowing Club

を見て感動。その地域に根ざした雰囲気とあり方に憧れた。日本にも同様のクラブを作りたい、その活動の拠点となるクラブハウスを一と動き始め、昭和52(1977)年に15名で任意団体を発足させた。トップレベルの選手を輩出しながら、地域貢献や生涯スポーツとしての漕艇の普及を目標としてきた。平成13年にNPO法人化。今や150名の会員と70名余りの賛助会員からなる大規模集団に。この

京阪沿線でがんばる人たち

地域に根ざす瀬田漕艇倶楽部



クラブハウスや催しで出会いと成長

春には、自分たちで建築作業をして建て替えた艇庫(写真⑥上)を見守る位置に、新しいクラブハウスが完成。近所の人たちとの交流にもピッタリの、おしゃれで明るい雰囲気だ。[Furukawa House]と名付けられた建物には、新クラブハウスの完成を見ずに亡くなった古川さんへの皆の感謝と尊敬の想いがいっぱい詰まっている。

同クラブの会員は、高校生～80歳代までと年齢の幅が広い。高校生のほとんどは地元の中学校でボート部に所属していた。ボート部のない高校に進学した彼、彼女らは、競技を続けるために、また漕艇をずっと楽しみたいという思いで入会してくる。子どもの活動を応援しているうちに、自分もボートにハマって入会した人もいる。

さまざまな年齢、経験の人が集うクラブでは、若い会員の社会性が大きく育つ。「出会いを大切に、自らの価値を高める」というスローガンが、ふだんの練習やイベントの中で実現されていく。5月～11月の体験教室や、初心者からベテランまで参加できる「びわこ市民レガッタ」(9月)は、ボート普及のためクラブが力を入れている。また、選手のトレーニング機器エルゴメータ(写真⑥下)を使った「全国マシンローイング大会近畿ブロック」実施の時には、競技者だけでなく観戦者にも楽しんでほしいと、多くの会員が企画、運営に携わり、常に新しいことにチャレンジする。毎年秋には、多種多様のボートが種目ごとにトップを競うタイムレース「Head of the SETA」(写真⑥)が開催される(今年は11月14・15日)。様々なボートが一堂に見られる光景は楽しそうだ。



子育てやスポーツで地域連携

短大・高校・幼稚園交流しつつ「心技一如」を実践

純美禮学園 滋賀短期大学 附属高等学校、附属幼稚園

沿線の

学校へ行こう

京阪膳所駅、石場駅、島ノ関駅から近く、琵琶湖一望できる小高い丘の上に、幼稚園から高校、短期大学を擁する「純美禮(すみれ)学園」がある。大正7(1918)年に開設された裁縫女学校を前身とし、戦後に新制高等学校となり、現在の附属高校に至っている。また、昭和45(1970)年に「滋賀女子短期大学」が開学するとともに、昭和55年に附属幼稚園が開園し、現在の学園の姿ができあがった。

「純美禮」という名称は、貞明皇太后(大正天皇の皇后)の御歌「花すみれ」の中から「すみれ」の3文字をあてたもので、つましく清らかに謙虚な花すみれに由来する。建学の精神は、「心技一如」。人格教育と実学教育の両輪で社会に貢献できる人材の育成を目標としている。

裁縫女学校の伝統を受け継ぐ高校は、平成20年に男女共学

となり、校名を「滋賀短期大学附属高等学校」と改めた。勉学とクラブ活動の両立を目指す生徒が多く、女子バスケットボール部(写真⑥上)やバトミントン部は全国大会の常連で、県内で上位レベルのクラブが多数ある。また、ソチ五輪のスキー・スノーボード女子ハーフパイプで5位入賞した岡田良菜さんは同校の卒業生である。

短大は、生活学科、幼児教育保育学科、ビジネスコミュニケーション学科の3学科からなり、多くの学生が学園生活に加え、幼稚園教諭、中学校教諭(家庭)、栄養士の免許や保育士などの資格の取得をめざしている。就職支援のための様々なプログラムが充実し、きめ細かく一人ひとりをサポートする体制ができており、学生の満足度も高い。

近年では、学園内での交流が活発になってきているのが特徴だ。高校では、短大が用意した講座の中から関心のあるものを生徒が選べる実践講座を開設している。レポートの書き方やビジネスマナーなどについて学べ、早い段階から進路を見据えた授業が体験できる。また、短大の幼児教育保育学科教員による保育士講座が連続して開講され、幼児教育に関心のある生徒にとって貴重な体験の場となっている。

隣接して附属幼稚園があるメリットも大きい。実習だけでなく日常的にボランティアとして関わったり、短大の調理実習施設を利用して一緒に料理作りを行ったり(写真⑥)などさまざまな交流が進められている。また、地域の子育て支援や、子育て中の保護者のネットワークづくりなどに取り組む「すみれがーてん」を10年以上継続して開催しており、地域の子育ての拠点として定着してきている。

高校では、10年以上前から地域の小中学生を対象に、毎週バレーボールとバスケットボールの教室を開催している。9月の水曜日に訪問した時には、約40人の子どもたちが高校生と一緒に大きな声を出して練習していた(写真⑥下)。大学のオープンキャンパスでは、生活学科の学生が手作りランチやケーキバイキングを提供し、高校生や保護者から好評だ。学外でも、近くにある名神高速道路大津サービスエリアでびわこ近鉄レストランとコラボし、レストランメニューの開発や特産品の企画販売に取組むなど、実践的な活動の場が広がっている。